

入院患者がいるので
ロビーで患者を診るしかない
現在の災害拠点病院で
サージキャパシティーが確保
されているのか

災害・パンデミック対応 常設臨時医療施設の提案

～サージ・キャパシティー～

災害・感染症専門 臨時医療施設の効果

- 傷病者の多数受け入れ
 - ▶ 1,000床規模で、平時は空床とし、有事においてサージキャパシティーとして速やかに活用
 - ▶ 傷病者と病院のマッチングの必要がなく、速やかに受け入れられる
 - ▶ 都本部の指令機能や調整機能をアシスト
 - ▶ 感染症対応と通常医療の区別を行い、一般通常医療を守る
- トリアージ、調整機能
 - ▶ 受け入れた患者をトリアージし、治療法を決定
 - ▶ 必要なら自院を含めて都内医療機関に振り分ける
- 習熟度・練度が上がり、治療の専門化・高度化が期待できる
- 治験の促進

災害時・パンデミック時の臨時医療施設

パラダイムシフト：有事専用の施設を平時に活用

有事

- 1,000床の専門病院として活用
- 人員は都立病院から招集
- 招集メンバーの登録制
- 訓練により、すぐに活動
- 想定する診療のみで、医療機器は限定的（設備投資を抑制）
- 災害外傷と感染症
- EOC（非常時対策本部）機能

平時

- 入院患者は空床
- シミュレーショントレーニングセンター（世界トップレベル）
- 都内の病院職員があらかじめ訓練
- 訓練として使いながら機器の保守
- **赤字削減**（診療するから赤字になる）
- 研究部門、研修部門、連絡調整会議





平時は
シミュレーション
トレーニング
センター

有事は
臨時医療施設

